

# FAQ

## <学校生活について>

**1** HRクラスは一般プログラム生と別になりますか。  
—— 完全に分かれることはありません。DP選択者は一般プログラム生とともにAクラスに所属する予定です。授業に関しては、ほとんどの授業が別々となりますが、保健体育等、合同で実施する授業もあります。

**2** 生活時程は一般プログラム生と異なりますか。  
—— 一日の生活時程はほぼ変わりません。ただし、授業時間数を確保するために、7限・8限に授業を実施したり、夏期休業や冬期休業期間が一般プログラム生と異なったりする可能性があります。

**3** 定期考査は一般プログラム生と異なりますか。  
—— 定期考査のスケジュールは一般プログラム生とは異なります。高等部2年次の1学期末・3学期末、高等部3年次の1学期末の計3回実施する予定です。試験内容に関しても一般プログラム生の定期考査と異なり、最終試験の模擬試験を中心に実施する予定です。

**4** 学校行事や生徒会活動は一般プログラム生と一緒に活動できますか。  
—— 定期テストや一部行事の時間が異なりますが、紅華祭（体育の部・文化の部）・クラスマッチ等の学校行事や、生徒総会・委員会などの生徒会活動については一般プログラム生と一緒に活動できます。

**5** 部活動は一般プログラム生と異なりますか。  
—— CASの活動のひとつとして位置付けられる場合がありますが、活動自体は一般プログラム生と一緒に活動し、内容もほぼ変わりません。

## <履修について>

**6** 高等学校卒業資格は取得できますか。  
—— はい。本校のDPカリキュラムは文部科学省の定める学習指導要領にも対応しているため、日本の高等学校卒業資格も取得できます。

**7** 途中でDPから一般プログラムへ変更はできますか。  
—— 同意書を受理してからのプログラム変更は認めています。

**8** DPを選んだ場合、留学できますか。  
—— できません。DPの2年間において、途中でプログラムを離れることは認めていません。

**9** 朝日塾への編入を考えています。前の学校もDPを実施しており、朝日塾と同じ科目・同じレベルの授業を選択していました。前の学校の授業時間数をカウントに入れることはできますか。  
—— できません。

**10** 英語は得意ですが、日本語が苦手です。日本語で行う科目の課題を英語で行うことはできますか。  
—— できません。指定された言語で取り組むことが求められます。本校のDPは、日本語と英語で行うプログラムであり、日本語と英語の両方について高度な言語運用能力が必要です。

**11** 英語に自信がありません。英語B(グループ2)と数学(グループ5)を日本語で受講することはできますか。  
—— できません。日本語DPでは最低2科目を英語で受講することが求められます。本校では、英語Bと数学が英語で受講する科目となっています。

## <編転入学試験について>

※出願の詳細については、募集要項を併せてご確認ください。

**12** いつまでに編転入学すれば、DPを選択できるでしょうか。  
—— 本校ではYear1が高等部1年次の1月にスタートします。従って、高等部1年次12月の編転入学試験を受検し、1月から入学する必要があります。(高等部2年次から編転入学した場合、DPを選択することはできません。)

**13** DPと一般プログラムで迷っているのですが、合格後にプログラムを選択し直すことはできますか。  
—— できません。出願時にDPを選択し、所定の試験に合格した方がのみがDP生として認められます。合格後に一般プログラムへ変更することはできません。

**14** DPと一般プログラムで、選抜の基準は変わりますか。  
—— 出願時に選択するプログラムに関係なく、同じ試験内容で区別なく選抜を行います。ただし、DPを希望する場合、日本語と英語の運用能力に関して、所定のレベルに達していることが条件となります。また、海外からの留学生及び帰国生に関しては、試験科目等が異なります。

## <その他>

**15** 費用について、一般プログラムとどのような違いがありますか。  
—— 一般プログラム生の費用とは別に、「DP設備等維持費」として月額20,000円を2年間(高等部1年次1月から高等部3年次12月まで)お納めいただきます。この費用は、ライティング支援システム(Turnitin)使用料、理科等の実験器具維持費、IB関連の書籍購入費等に充当されます。また、下に例として挙げている実費に関しては、別途ご負担いただきます。  
《ご負担いただく実費の例》  
・教材費(テキスト、参考文献、関数電卓、文房具等)  
・理科実験時の個人用備品(白衣・ゴム手袋・ゴーグル等)  
・フィールドワーク等、校外学習時の現地までの交通費・施設利用費  
・「Managebac」使用料  
・IB最終試験受験料

# 国際バカロレア(IB)とは？

What is International Baccalaureate?



## 2021年1月

### 一条校として中国地方最初の国際バカロレア MYP・DP 認定校となりました。

※一条校とは、学校教育法第一条に規定されている学校のことであり、専修学校や各種学校は含まれません。朝日塾中等教育学校は、一条校として、文科省が定める学習指導要領に則り、IB教育と「主体的・対話的で深い学び」の実践の両立に取り組んでいます。

IB認定校は「質の高い、チャレンジに満ちた国際教育に信念をもって取り組む」という理念を共有する学校であり、「IBの使命」に実践を通じて近づこうとすることがIB認定校としての責任です。IB教育は、様々なことに対し問題意識を持ち解決に向けて取り組むための「探究心」や「協調性」を育む教育プログラムとして世界的に高い評価を受けています。



# 国際バカロレア機構とは？

International Baccalaureate Organization

国際バカロレア機構 (IBO) は、優れた国際教育のプログラムを提供し、世界共通の大学入学資格を授与することを目的として、世界のインターナショナルスクールの教員と保護者によって 1968 年に設立された非営利教育団体です。(本部はスイスのジュネーブにあります。) 現在では、大学入学資格を授与するのみならず、卓越した国際教育のプログラムを提供することで、国際的な若者の育成に貢献しています。IBO の認定を受けた IB 認定校 (IB ワールドスクール) は、以下の「IB の使命」に基づいた教育活動を全世界で行っています。

## IB の使命

The IB Mission Statement

国際バカロレア (IB) は、多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成を目的としています。この目的のため、IB は、学校や政府、国際機関と協力しながら、チャレンジに満ちた国際教育プログラムと厳格な評価の仕組みの開発に取り組んでいます。IB のプログラムは、世界各地で学ぶ児童生徒に、人がもつ違いを違いとして理解し、自分と異なる考えの人々にもそれぞれの正しさがあり得ると認めることのできる人として、積極的に、そして共感する心をもって生涯にわたって学び続けるよう働きかけています。



## IB の教育プログラム

IB には初等教育プログラム (PYP)、中等教育プログラム (MYP)、ディプロマ・プログラム (DP) という 3 つの教育プログラムがあります。(この他に CP (Career-related Programme) というプログラムもあります。)

各国の教育的要件や文化的背景、子どもの成長段階に応じた優先事項等、様々なことに合ったカリキュラム編成を可能とするため、PYP・MYP では、主にカリキュラムの「枠組み」が提供されています。一方、DP は、2 年間の活動記録と高等部 3 年次の 11 月に実施される「最終試験」の結果に基づき世界共通の大学入学資格「IB ディプロマ」を授与することになりますので、厳格なカリキュラムが組まれています。

IB の認定を受けている学校は、2024 年 3 月時点で、世界 160 以上の国・地域において約 5,600 校あります。

<b>DP</b> Diploma Programme ＜ディプロマ＞	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 対象年齢：16 歳～19 歳</li> <li>● 高校 2～3 年生の 2 年間で 6 つの科目と 3 つの要件を履修</li> <li>● 最終試験を経て所定の成績を収めると、国際的に認められる大学入学資格 (IB ディプロマ) が取得できる。原則として英語、フランス語、スペイン語で実施。</li> <li>● 学校数：3,651 校 (日本国内 68 校)</li> </ul>
<b>MYP</b> Middle Years Programme ＜中等教育＞	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 対象年齢：11 歳～16 歳</li> <li>● 中学校から高校のカリキュラムに相当</li> <li>● 履修する 8 科目を通じて、これまでの学習と社会のつながりを学ぶ。母国語で学ぶことができる。</li> <li>● 学校数：1,683 校 (日本国内 39 校)</li> </ul>
<b>PYP</b> Primary Years Programme ＜初等教育＞	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 対象年齢：3 歳～12 歳</li> <li>● 主に小学校のカリキュラムに相当。</li> <li>● 精神と身体両方を発達させることを重視したプログラム。母国語で学ぶことができる。</li> <li>● 学校数：2,268 校 (日本国内 63 校)</li> </ul>

上の学校数はプログラム単位で数えた校数ですので、認定校の合計数 (5,600) とは異なります。



## IB の学習者像

The IB Learner Profile

「IB の学習者像」は、左の「IB の使命」を具体化したもので、「国際的な視野を持つとはどういうことか」という問いに対する答えを、人物像という形で表現したものです。

IB 認定校では、それぞれの学校が独自にこの IB の学習者像を解釈したポスターを作成し、校内に掲示することが求められます。

下のポスターは、本校教員が作成したオリジナルポスターです。



# 「生きる力」を身に付ける MYP

MYP は 11 歳から 16 歳までの生徒を対象としたプログラムです。本校では、中等部 1 年生 (MYP2) から高等部 1 年生 (MYP5) までの 4 年間、在籍する全ての生徒がこのプログラムで学びます。MYP の各教科を通して、生徒たちは、コミュニケーション・社会性・自己管理・リサーチ・思考の 5 つに大別される「ATL スキル=学び方を学ぶ力」を身に付けていきます。(ATL とは Approaches To Learning (学習の方法) の略称です。) ATL スキルを中等部 1 年生から少しずつ身に付けていく中で、DP に進んでいく学力だけでなく、論理的思考力や問題解決能力などが養われます。

## MYP 各教科と学習指導要領の関係

本校では、右図の通り、MYP の 8 つの教科群を学習指導要領の各教科と対応させています。学習指導要領で示された内容を、「探究⇄行動⇄振り返り」の相互作用を通じて学んでいきます。「言語の習得 (外国語)」以外の科目は日本語で授業を実施します。

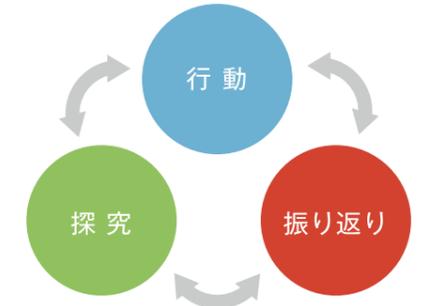
MYP では、「重要概念」「関連概念」という 2 つの枠組みの概念理解に重点を置いた指導が行われます。この概念理解を通じて、各教科を他の教科や実社会とは関連性のないものとして孤立的に捉えるのではなく、教科内容と実社会との関連性を理解するように働きかけていきます。

MYP 教科群	学習指導要領の教科 ＜中等部＞	学習指導要領の教科 ＜高等部＞
言語の習得	外国語	外国語
言語と文学	国語	国語
個人と社会	社会	地理歴史・公民
理科	理科	理科
数学	数学	数学
芸術	音楽・美術	芸術
保健体育	保健体育	保健体育
デザイン	技術・家庭	情報・家庭

## MYP 特有の様々な授業

### ● SA (Service as action : 行動・奉仕活動)

「行動 (実際に行き経験することによって学ぶこと)」を IB は学習プロセスの重要な要素と位置付けています。その中の「奉仕活動」に関して、「人のために行う」という考えから公共の利益のために「人と協働で取り組む」という考え方に進化させていくことが MYP では求められます。様々な活動とその振り返りを通じて、自己認識を高め、コミュニティの中での責任感を育てていきます。



### ● PP (Personal Project : パーソナルプロジェクト)

文字通り「生徒一人ひとりが取り組む探究活動」です。生徒は、「グローバル化と持続可能性」「アイデンティティと関係性」といった 6 つの「グローバルな文脈」と関連するテーマを定め、指導教員とともに探究活動を進めます。進捗状況を「プロセスジャーナル」に記録することで「探究⇄行動⇄振り返り」のプロセスを明確にしていきます。MYP における学習を総括する機会となります。

### ● IDU (Interdisciplinary Unit : 学際的単元)

学際的な学習とは「2 つ以上の教科の知識体系や考え方を理解し、それらを統合して新たな知識を創造するプロセス」です。「教科横断型授業」とも呼ばれ、文科省が推進する「新学習指導要領」でも求められている授業方法です。各教科に根差した「ものの見方」を融合することで、生徒は単一教科の学習だけでは到達しないような「新しいものの見方」を身に付けていきます。

### ● 英語習熟度別授業

IB は生徒が自国の文化と他国の文化を主体的に理解できるよう 2 つ以上の言語の習得を義務づけています。MYP では「Phase」と呼ばれる習熟度別クラスで英語の授業を展開し、生徒それぞれの学力に合わせたクラス編成で英語運用能力の向上を目指します。



▲ MYP プログラムイメージ図

## 本校で開講する科目

	グループ	科目
①	言語と文学(母国語)	日本語 A：言語と文学(HL・SL)
②	言語習得(外国語)	英語 B(HL・SL) ※All English
③	個人と社会	歴史(HL)、地理(SL)
④	理科	生物(HL・SL)、化学(HL)
⑤	数学	数学：応用と解釈(HL・SL) ※All English
⑥	芸術	本校では開講しません。

- ・上表の6つのグループから、HL (Higher Level) を3科目、SL (Standard Level) を3科目選択します。
- ・グループ2(言語習得)とグループ5(数学)はAll English 授業です。(最終試験も英語で受験します)
- ・グループ6(芸術)の代わりに、グループ3(個人と社会)またはグループ4(理科)のいずれかを2科目選択します。



▲ DPプログラムイメージ図

## 「IBディプロマ」を取得する条件

選択した6つの科目の評価については、7段階評価で4点以上が合格となります。また、「コア科目」のうちTOKとEEに関しては、合計で最大3点が与えられます。45点満点中24点以上で、IBディプロマ(認定証書)を取得することができます。(6つの科目の合計点が24点を超えていたとしても、「コア科目の3要件」を満たしていない場合には、取得できません。)

各科目の成績評価は内部評価と外部評価の合算です。内部評価とは担当教員による評価のことであり、評価全体の2～3割を占めます。(内部評価もIBに提出することが義務付けられており、評価規準に沿って適正に評価を出しているかチェックを受けます。) 評価全体の7～8割を占める外部評価とは、5月と11月に実施される最終試験のことです。この試験の採点はIBの試験官が行います。本校の場合、高等部3年次の11月に受験し、翌年1月に最終スコアが通知されます。IBディプロマの取得率は、例年8割弱で推移しています。万が一、最終試験に不合格となった場合、翌年、再度チャレンジすることが可能です。

## 本校でのDP選考基準

### A. 受け入れ基準

本校は、中高一貫校ですので、中等部3年生(MYP4)から高等部1年生(MYP5)に進学する時に、改めて入学試験を受ける必要はありません。高等部1年生(MYP5)の段階で、DP受講希望の生徒は、以下の基準を満たした上で、所定の手続きを取ることが必要となります。

- ・DPで2年間の学習を行う強い意志を有していること。
- ・高等部1年(MYP5)における、MYP全8教科のMYP評価の平均値が4.0以上であること。
- ・高等部1年(MYP5)12月末までに、英語の外部検定試験の評価がCEFR「B1」以上のレベルであること。
- ・留学生の場合には、高等部1年(MYP5)12月末までに、日本語能力試験(JLPT)「2級(N2)」以上のレベルであること。

### B. 選考

左記基準を満たしており、DP受講を希望する場合、生徒は、担任にその旨を伝えます。担任と学年主任は、1学期末の保護者懇談時に、生徒・保護者の意思確認を行い、「DP受講願」「保護者同意書」を教務部に提出します。所定の期日までに「DP受講願」「保護者同意書」を提出した生徒・保護者に対して、面接試験を実施します。面接試験は、MYPコーディネーター・DPコーディネーター・管理職が担当し、生徒・保護者のIB教育の理解度、DP学習に対する最終的な意思確認を行います。なお、高等部1年生に編入し、DP受講を希望する生徒に対しては、書類審査・作文(必要に応じて学科試験)・面接を実施します。また、編入学時の言語レベルに関しては、左記「受け入れ基準」の言語レベルを満たしていることが条件となります。(試験内容等の詳細は「編転入学試験募集要項」をご確認ください。)

## 日本の学習指導要領との両立

学校教育法第一条で規定されている高等学校では、日本の高等学校の卒業資格を取得するためには日本の学習指導要領で定められた科目を履修しなくてはならず、DPコースに進んだ場合の負担はかなりのものでした。日本国内でのIB教育の普及を目的として、2015年8月に学校教育法施行規則の一部が改正され、DP認定校では、IBのカリキュラムと学習指導要領の双方を無理なく履修できるよう、高校卒業に必要な74単位のうち36単位を、DPの科目で読み替えるようになりました。



## 日本語DPとは?

IBで使用されていた言語は英語・フランス語・スペイン語の3つでしたので、日本国内のIB校では授業の全てを英語で実施しなくてはならず、IB導入が進まない1つの要因となっていました。そこで文部科学省とIBが協力し、DPの一部科目の授業・試験・評価を日本語で実施する「日本語DP」が2015年度から導入されました。

## 国際的に評価される大学入学資格「IBディプロマ」

### ■海外の大学でのIB入試

現在、世界の1800以上の大学でIBディプロマ資格を活用した入学試験制度が採用されています。IBディプロマ資格は入学を希望する際の資格の1つですので、大学が定めている試験や、その大学が所在する国で定められた試験のスコア等が別途必要となることが多いです。海外では、入学試験の判断材料として活用することに加えて、DPのHL科目で一定の得点を取得した生徒に対して、大学における該当科目の履修を免除したり、最終試験の総合点が極めて優秀な生徒に対しては、いわゆる「飛び級」という形で大学2年次に所属することを認めたりといった制度を有する大学もあります。

### ■日本の大学でのIB入試

日本では、IBディプロマ資格を取得した18歳の生徒は高校卒業と同等以上の学力を有していると認められ、日本の大学入試の受験資格を得ることが出来ます。近年、国立、私立を問わず、IBディプロマ資格を利用した大学入試を実施する大学が増えています。出願要件などは大学ごとに異なりますが、多くの大学で総合型選抜(旧AO入試)などの出願資格の一つとして活用されており、所定の要件を満たした場合、受験することが可能です。日本の大学でもDPの成績等を活用した入学試験を積極的に導入する動きが広がっています。



《IB入試を実施している日本の大学の一例》

国立大学	北海道大学	東北大学	筑波大学	お茶の水女子大学	東京大学
東京医科歯科大学	東京外国語大学	東京藝術大学	金沢大学	名古屋大学	京都大学
大阪大学	岡山大学	広島大学	九州大学	長崎大学	鹿児島大学
公立大学	国際教養大学	東京都立大学	横浜市立大学	都留文科大学	大阪市立大学
私立大学	青山学院大学	学習院大学	慶應義塾大学	国際基督教大学	順天堂大学
玉川大学	中央大学	東京国際大学	東洋大学	法政大学	武蔵野大学
明治学院大学	立教大学	日本体育大学	愛知医科大学	中京大学	京都外国語大学
立命館大学	近畿大学	関西学院大学	神戸女学院大学	西南学院大学	立命館アジア太平洋大学

### 注意点

DPを利用して大学へ出願する場合、どの科目をどのレベルで選択したかが重要となります。例えば、受験資格要件として、「数学をHLで選択し、7段階中5以上の成績を修めている」や「理科を2科目履修している」といった形で、DP科目を指定していることがあります。概して、理系分野の学部・学科において、細かい出願条件が課せられている場合が多いので、十分注意してください。

### 詳細はこちら

国際バカロレアの詳細については「国際バカロレア公式ウェブサイト <http://www.ibo.org/>」または、「文部科学省IB教育推進コンソーシアム (<https://ibconsortium.mext.go.jp/>)」をご覧ください。



公式ウェブサイト



IB教育推進  
コンソーシアム

※丸数字はグループを意味しています。

## 年間スケジュール



**① 言語と文学【日本語 A：言語と文学】**  
HL：240 時間・SL：150 時間／日本語

日本語 A：言語と文学では、SL で 4 つ、HL で 6 つの文学作品を中心に広い範囲の文学と非文学テキストを学びます。7 つの概念（アイデンティティ・文化・創造性・コミュニケーション・観点・変換・表現）を重要視し、言語全体の本質と影響力について感性を磨くことがねらいです。生き生きとした言語の特性を知り、実際の意味と同時にその奥深くにある美しさを探究することで、さまざまな文化に対する批判的思考と国際的な視野を養います。

**② 言語習得【英語 B】**  
HL：240 時間・SL：150 時間／英語

This course is designed to help students become skilled English communicators in authentic situations, while also learning to appreciate the range of English culture. Students will be exposed to various types of texts that provoke their curiosity including professional texts, mass media texts, and personal texts. In addition, HL students will read two works of literature (Animal Farm by G. Orwell and Wonder by R. J. Palacio in our school). Students will explore intriguing issues of English-speaking cultures and literary heritages on topics from global issues to social relationships.

英語 B は、実生活において英語でコミュニケーションを取る能力を身に着けると同時に、英語圏の文化に親しみ、そして理解を深める為に設計されたコースです。ビジネスレターやレポート、新聞記事や文学作品、延いてはエッセイやブログ記事に至るまで、生徒の関心を喚起する様々なタイプの情報を題材として学習を進めていきます。さらに HL では、2 つの文学作品にも取り組めます。（本校では、G. Orwell 作「動物農場」と R. J. Palacio 作「Wonder」を扱う予定です。）グローバルな問題や社会との繋がりを通して、英語圏の興味深いテーマを探っていきます。

**③ 個人と社会【歴史】**  
HL：240 時間／日本語

DP 歴史では、世界史を古代から現代まで広く浅く取り上げるのではなく、いくつかのテーマを選んで深く探求していくことになります。また、4 つの地域世界から主な学習対象を 1 つ選びます。本校では、20 世紀の世界史に関わるテーマを取り上げ、アジア世界を中心に学習する予定です。様々な資料を分析し、調査し、議論して、歴史的思考力を高めていきます。

**③ 個人と社会【地理】**  
SL：150 時間／日本語

地理とは個人と社会と物理的な過程との間に生じる相互作用を時間と空間の両面から捉える学問です。加えて地理は「社会科学」と「自然科学」との間に位置するため、幅広い学問領域を取り扱います。本校では、レポート作成やグループ発表といったアクティブラーニングやフィールドワークを行うことにより、多角的な視点から社会を見つめ考察する力を身に着けます。

**④ 理科【化学】**  
HL：240 時間／日本語

化学の原理は、私たちが生活する物理的環境や全ての生物システムの理解を支える土台となっています。DP 化学では、化学の基本原則を学びます。そのため、理論と実験の両方を取り組み、科学的な知識、実験スキル、批判的思考力、コミュニケーション能力、デジタル技術のスキル等、様々な能力やスキルを取得していきます。さらには化学の国際的側面についての認識を高めるも行います。

**④ 理科【生物】**  
HL：240 時間・SL：150 時間／日本語

生物学は、生命について研究する学問です。生物の多様性が、生物学を魅力ある、チャレンジに満ちた学問にしています。DP 生物では、実験を通じた実践的なアプローチによって学習を行います。実験の計画から実施、まとめまで一連の活動を生徒個人で行います。こうした学習を通して、リサーチスキルやコミュニケーションスキル、批判的思考力、国際的な視野等を身に付けていきます。



**⑤ 数学【応用と解釈】**  
HL：240 時間／英語

This course provides students with a variety of opportunities to explore and understand how mathematics is used in real-world contexts which develop their mathematical thinking with the help of technology. This covers different topics such as Algebra, Geometry, Trigonometry and other pre-university mathematics courses such as Descriptive and Differential Statistics, Linear Algebra, Vectors and Matrices, Differential and Integral Calculus including Differential Equations and Graph Theory. Students who wish to take higher level must have good algebraic skills and who enjoy the pleasure and satisfaction when exploring challenging real-world problems.

このコースは生徒に現実世界の問題を解決するために数学がどのように用いられるかを探究し理解する様々なチャンスを与えるので、彼らはテクノロジーも使いつつ数学的思考力を育むことができます。このコースは代数、幾何、三角法、およびその他の大学入学前の数学すなわち記述および推測統計学、線形代数、ベクトルと行列、さらに微分方程式とグラフ理論を含む微分積分をカバーしています。HL を希望する生徒としては、代数のスキルに秀で、実社会の難しい問題を探究することから喜びや満足を感じられる生徒が望まれます。

**⑤ 数学【応用と解釈】**  
SL：150 時間／英語

This course, like HL, is designed to allow students to see how mathematics is applied in real-world context by solving real-world problems with the help of technology. Although topics included in this course are a bit different from higher level, this course also covers pre-university mathematics courses such as Statistics and Calculus in addition to Algebra, Geometry and Trigonometry. Students who wish to take this course must have interest in developing their mathematics for describing the world.

このコースも HL と同様に、テクノロジーも使いつつ実社会の問題を解決することにより数学が実社会でどのように応用されるかを学べるように設計されています。このコースに含まれるトピックは HL のそれとは少し異なりますが、このコースも代数、幾何、三角法に加えて統計や微分積分のような大学入学前の数学をカバーしています。このコースを希望する生徒としては、実社会の問題を説明するために数学的能力を高めることに興味を持っている生徒が望まれます。

**コア TOK (Theory of knowledge 知の理論)**  
100 時間／日本語

「歴史」「人間科学（ヒューマンサイエンス）」「自然科学」「数学」「芸術」という 5 つの領域と、「知識と情報」「知識と政治」という 2 つの選択テーマを扱います。これらの分野の様々なテキストを分析することで、批判的思考力（クリティカルシンキング）を高めていきます。「TOK 展示」と「TOK エッセイ（日本語 3200 字）」という 2 つの課題に取り組むことで、複数のものの見方に触れ、心を開く姿勢を養い、多様な文化の価値観を認めるような人間になることを目指します。

**コア EE (Extended Essay 課題論文)**  
日本語または英語（取り組む課題によって異なります）

DP で学習する内容の中で、特に生徒自身の興味関心と深い繋がりがあつたものを 1 つ選択し、8000 字（英語の場合 4000 語）の論文に取り組みます。生徒一人ひとりに指導教員（スーパーバイザー）が付き、授業外の時間を活用して、論文作成を進めます。論文執筆を通して、生徒は DP で学習した内容をより深く理解できるようになると同時に、これまで学んだ ATL スキルを更に向上させることが出来ます。

**コア CAS (Creativity, action, and service) 創造性・活動・奉仕**  
150 時間／日本語

創造的思考を伴う活動、身体的な活動、無報酬での自発的な交流活動（奉仕活動）といった体験的な学習に取り組みます。生徒は CAS コーディネーターやアドバイザーとのミーティングを通して、計画・行動・振り返りを行います。また、単発的または継続的な活動を通して「自己の成長」と「他者との関係性」について深く考察していきます。授業以外の時間を活用して、2年間、創造性・活動・奉仕のバランスを保ちながら、CAS 活動を進めていきます。

10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	11月
<ul style="list-style-type: none"> <li>③ 地理：フィールドワーク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>③ CAS 面談</li> <li>③ 歴史：歴史に関する探究トピック選択</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>④ TOK 展示</li> <li>④ TOK 展示：CSPD ガイダンス</li> <li>① 言語と文学：HL 小論文使用作品決定</li> <li>CAS 活動優先日</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>④ 理科：CSP 提出</li> <li>③ 地理：フィールドワークレポート草稿提出</li> <li>④ TOK 展示草稿提出</li> <li>④ 理科：CSPD テーマ提出</li> <li>④ 化学：科学的探究ガイダンス</li> <li>DP Year 2 スタート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>④ 理科：CSP 提出</li> <li>③ 地理：フィールドワークレポート最終稿提出</li> <li>TOK 展示完成版提出</li> <li>① 言語と文学：Paper 2 使用作品決定</li> <li>TOK エッセイガイダンス</li> <li>③ 歴史：歴史に関する探究調査計画提出</li> <li>④ 化学：科学的探究テーマ提出</li> <li>⑤ 数学：数学研究レポートガイダンス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CAS 活動優先日</li> <li>④ 生物：科学的探究ガイダンス</li> <li>① 言語と文学：HL 小論文草稿提出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 言語と文学：個人口述アウトライン提出</li> <li>④ 生物：科学的探究テーマ提出</li> <li>④ 化学：科学的探究レポート提出</li> <li>③ 歴史：歴史に関する探究中間発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 言語と文学：個人口述</li> <li>⑤ 数学：数学研究レポート提出</li> <li>CAS 発表</li> <li>TOK エッセイ PPF 記録</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>TOK エッセイ草稿提出</li> <li>④ 生物：科学的探究レポート提出</li> <li>③ 歴史：歴史に関する探究草稿提出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>TOK エッセイ最終稿提出</li> <li>① 言語と文学：HL 小論文最終稿提出</li> <li>② 英語：個人口述</li> <li>③ 歴史：歴史に関する探究最終稿提出</li> <li>TOK エッセイ PPF 記録</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CAS 面談</li> <li>最終試験模擬試験 (Mock)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CAS Progress 集計提出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界最終試験</li> </ul>